

# 令和5年度学校自己評価システムシート 国際学院中学校高等学校(高等部)

目指す学校像	建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を身に付けた人材の育成
--------	----------------------------------

重点目標	1 教育力の向上 2 グローバルネットワーク活動の推進 3 広報募集活動の強化
------	-----------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校評価実施日とは、学校評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校評価委員	5名
事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>①体育祭や五峯祭は生徒主体で縦、横のつながりが持てるような取り組みを行っているが、準備時間が十分取れなかったり、生徒たちのつながりの意識を十分に高められていないなどの課題がある。さらに生徒主体の取り組みが推進できるようにする工夫が必要である。</p> <p>②生徒を取り巻く環境が大きく変化しており、それぞれの個に応じた指導が求められる。すべての生徒が安心して、前向きに学校生活に取り組むことができる環境や仕組みをしていく必要がある。</p> <p>③昨年度は進路指導目標をほぼ達成することができた。今年度については維持向上できるようにしていく。</p>	<p>①主体性の醸成</p> <p>②教育環境の整備</p> <p>③進路実績の向上</p>	<p>①生徒主体で行事を進めていくしかけを生徒に提案させる。</p> <p>①②校則について、教員と生徒のワーキンググループを立ち上げ見直しを図っていく。</p> <p>②生徒のニーズに合わせた授業、講習や補習を実践していく。</p> <p>②いじめ防止対策基本方針を見直し、組織的な対応を強化する。</p> <p>②生徒指導、教育相談体制を整備する。</p> <p>②情報セキュリティ講演を中心に情報リテラシーを高める取り組みをしていく。</p> <p>③最新の入試情報を収集するとともに、個々の生徒にニーズに応じた進路指導を考え、実践していく。</p> <p>③進路別のガイダンスを教員、生徒保護者向けに実施する。</p>	<p>①学校運営、行事に生徒が主体的に関わることができたか。</p> <p>②それぞれの生徒に応じた講習、補習が実施できたか。</p> <p>②いじめ防止対策基本方針を実情に合わせて見直しすることができたか。</p> <p>②教職員全体で組織的な対応をする体制を整えることができたか。</p> <p>②情報リテラシーを高める取り組みを実施することができたか。</p> <p>③進路実績目標を達成することができたか。</p>	<p>①60周年記念体育祭では委員からのアイデアが実際にかたちとなったり、教員と生徒のワーキンググループで次年度の校則改正を行うなどの行動がみられた。</p> <p>②情報リテラシーの向上、生徒指導、教育相談体制の整備をすすめている。学習においては生徒のニーズを把握しながら授業を中心に、講習、補習を実施している。しかし、なかなか成果として出るまでに至っていないのが現状である。</p> <p>③大学の一般受験を控えているが、現在、大学進学率56.7%、筑波大学・埼玉県立大学・明治大学2名に合格している。(1月31日現在)</p>	B	<p>○学習を含めた学校生活について、生徒主体的に学ぶ機会を設ける。そのために、土曜日の選択講座の導入など生徒自ら選択する機会をつくっていく。</p> <p>○保護者を含め、情報リテラシーの啓発活動を計画的に実施していく。また、なかなか声を上げられない生徒の悩みや不安をアンケートや面談を通して、拾い上げていく。</p> <p>○進路実現に向けてのロードマップを整理し、それぞれの時期の数値目標を掲げて可視化できるようにする。</p>
2	<p>①ESDやSDGsの教育の成果について、成果をアンケートを活用し、見える化しようとしている。今後はそれらをどのように活用し、推進していくかは課題である。</p> <p>②コロナ禍におけるオンラインによる国際交流に加え、実際に海外へ行く研修が実施できるようになってきた。費用面などの課題があるが、オンラインも活用しながら、より効果的な海外研修を計画していく必要がある。</p>	<p>①ESD、SDGs達成に向けた教育活動の推進</p> <p>②地域との連携や海外交流などの推進</p>	<p>①日頃の教育活動や学校行事の中でSDGsを意識した取り組みを実践する。</p> <p>①企業との連携活動を積極的に活用する。</p> <p>①SDGsの目標達成のため本校の教育活動の成果を図るアンケート調査を実施する。</p> <p>②地域の開放講座に積極的に参加し、交流を図る。</p> <p>②ESDやSDGsの教育を意識した海外研修を実施する。</p>	<p>①企業との連携をすることができたか。</p> <p>②地域の活動に積極的にかかわることができたか。</p> <p>①②オンライン交流や海外研修を通じた国際交流の中でESDやSDGsの取組を推進することができたか。</p>	<p>①SDGsについて、3年間で95.9%の生徒が理解を深めることができた、ユネスコスクールについて、60.7%の生徒が高校生活でユネスコスクールの実感を持つことができた。ユニバーシティジャパンとの共同企画や企業と連携したリサイクル活動などを実践している成果である。</p> <p>②コロナ禍で自粛していた海外研修(マレーシア、オーストラリア)の実施、オランダの学校との対面での交流、学校開放講座、五峯祭の一般公開を実施することができた。</p>	A	<p>○ESDやSDGsについて、理解を深めることは達成しているが、実際に行動する機会が増えたと回答しているのは70%に満たない。生徒会やSDGs推進委員の活動を充実し、行動につなげていきたい。</p> <p>○ESD活動の発信拠点としてさらに伊奈町開放講座、五峯祭を通じて、地域の方と交流する方法を検討していく。</p>
3	<p>①県内の中学校や塾、中学生に対して、知名度がまだ十分ではない。そのため、本校の建学の精神、教育方針に基づいた教育活動の成果を積極的に発信していく必要がある。</p> <p>②本校に期待されることや強みなどに十分に把握することは、本校生徒保護者の満足度を上げ、入学者を集めることにつながる。そのため、調査入学後の生徒や保護者に調査をし、その結果を授業などの教育活動にどのように生かしていくかを考える必要がある。</p>	<p>①教育活動を発信することによる生徒の自己効力感の醸成</p> <p>②本校の教育方針に共感する受験生の確保</p>	<p>①生徒の教育活動の成果をホームページなどで発信する。</p> <p>①部活動や課外活動の成果を積極的に発信する。</p> <p>①②ホームページを改装する。</p> <p>②SNSを積極的に活用した、広報募集活動を展開する。</p>	<p>①②速やかにホームページを改装することができたか。</p> <p>②受験者数、入学者数ともに昨年度を上回ることができたか。</p>	<p>①ホームページを改装し、部活動の全国優勝、校外学習、募金活動などさまざまな生徒の活動をSNSを活用し、情報発信をしている。また、本校を舞台としたドラマ撮影やエキストラでの参加など生徒の自己効力感の醸成につなげている。</p> <p>②現時点では、受験者数と単願者数が減少している。基準値の向上は達成できている。</p>	C	<p>○適切な時期、方法で学校説明会や個別相談会を実施する。</p> <p>○教職員一人ひとりが教育活動の成果を実感し、それを中学生保護者に発信していく。</p> <p>○保護者会と連携し、学校の取り組みの改善を図っていく。</p> <p>○受験者数が減っている要因は、進学コースの基準を上げたことと、近隣の公立高校の倍率によると考えられる。</p> <p>○単願者数は、出願者数が減少したことによる。この原因を検証し、単願の入学者数を増やしていくことが課題である。</p>

学 校 評 価	
実施日 令和6年2月15日	
評価委員からの意見・要望・評価等	
校則の見直しに際し生徒の参画を徹底させていることが評価できる。保護者や地域の方も交えて見直しをするとさらによい。	生徒が参画してPDCAサイクルを構築するとよりよいものになるのではないかと。
教師が、教科の垣根を越えて学びあうことが、授業力向上につながる。	自己評価システムや授業アンケートを使いながら教育活動を見直していくことが大事。見直す際の視点で大切なことは教師の変容・生徒の変容をいかに可視化していくかである。
具体的な姿を評価指数に書き込み、教員・生徒の変容をどう可視化するのか検討すべきである。	改善策は全教員で共有すべきである。
五峯祭で地域の方々在今年もいってみたいと思う地域行事になっていけばよい。	海外研修が出来ていない世代で6割の生徒がユネスコスクールを実感している。これについては今後改善できる。
海外研修旅行が円安の影響を受けているそうだが、オンラインを含めたハイブリッドでの教育実践を高めていく必要がある。	特色であるSDGsの取り組みを深めていく必要がある。具体的に企業から情報や体験を聞くことが重要である。
部活動の活躍を地元や中学生の保護者に伝えていくことで一つの魅力になり、広報活動につながる。	学校評価に保護者のアンケートが加わると様々な部分で参考になることが増える。
部活動体験会などを増やすことなどが志願者増につながるのではないかと。	学校の魅力をSNSなどを活用し、発信し続けることが志願者を増やすことになるはずである。

# 令和5年度学校自己評価システムシート (国際学院中学校高等学校・中高一貫)

目指す学校像	建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を身に付けた人材の育成
--------	----------------------------------

重点目標	1 豊かな人格形成 2 確かな学習指導 3 広報活動の推進
------	-------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校評価実施日とは、学校評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校評価委員	5名
事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	①建学の精神、教育方針に基づいた人格の形成を目指している。 ②国連グローバルコンパクト加盟校として、SDGsの観点を踏まえ教育活動を推進している。 ③ユネスコスクール加盟校として、海外生徒との親交を深める活動を継続している。また、関連した奉仕活動等も実施している。コロナ禍での制限の中で効果的に実施することが課題である。 ④規則正しい生活習慣と、平素から学習に励む習慣を身につけることを中心とした指導を行っている。定着に課題がある。	①建学の精神、教育方針に基づいた行動 ②SDGs観点を踏まえた行事の実施 ③ユネスコスクール加盟校との交流 ④自主的な貢献の態度 ⑤規則正しい生活習慣と、学習習慣の定着	①挨拶の励行、清掃の徹底、時間厳守など、凡事を徹底する指導を、常時実践する。 ②五峯祭などの教育活動公開の機会に、平素学校で行っているSDGs活動を報告するとともにその推進を図る。 ③オンラインを活用して、国際交流を図り、生徒間での親交を深める。また、ユネスコ協会を通じて寄付活動を行う。 ④生活記録表や学習時間表によって、生活管理・学習管理を行う。また、生徒会活動を活発化し、生徒が学校行事などに参画できるようにする。	①凡事の徹底ができたか。 ②五峯祭・修学旅行にて、SDGs関連の活動や発表ができたか。 ③募金活動ができたか。 ④海外校との交流ができたか。 ⑤家庭学習時間が向上したか。 ○1週間で15時間を継続(高校) ⑥考査前学習時間が向上したか。 ○2週間で40時間(中学) ⑦生徒会活動が適切に行われ、よい校風に寄与したか。	①挨拶は、生徒の主体的取り組みとして、先輩から後輩へ受け継がれて継続できている。 ②中学生徒会を中心に、身近なSDGsの学びを道徳の時間、五峯祭などで披露した。 ③広島京都奈良修学旅行、日本料理食卓作法、東大博物館見学を通してSDGs学習を推進した。 ④中高生合同のマレーシア海外研修を実施した。オランダの高校生が来校したためホームステイ受け入れなどの交流を行った。 ⑤タイからの留学生を受け入れた。オンライン国際交流は、台湾とマレーシアの学校と実施した。奉仕活動としては、五峯祭活動での利益を能登震災被災地とACCUユネスコ協会に寄付した。また、伊奈町文化祭のボランティアに参加した。 ⑥高校生の学習時間は十分ではないが、学校でも朝学習の時間を設けて、週時間確保を支援している。 ⑦定期考査2週間前からの家庭学習時間が40時間超の中学生は53%であった。また、80時間超の中学生が3名いた。	B	SDGsの考えに鑑み、日常の教育活動を実践する。そのためには教職員全員が17の目標を深く理解し、かつ普段の授業や学校行事等で機会をとらえて、推進していく必要がある。  学習時間記録は、よいものを可視化し、生徒集会のうちに表彰するなどして、生徒の意欲喚起につなげることができた。中等部では生活の記録は担任の担当だが、朝礼や会議等で関係職員と共有している。この取り組みを継続し、形骸化しないように生徒指導に生かしていくことが課題である。
2	①新学習指導要領に則り、より深い分野理解を目指して、授業を実践する。 ②特に英語・数学・国語については、多くの時間を割き、本質や核心を得る授業を展開する。また、先取り学習も推進する。進度と内容定着の両立に課題がある。 ③検定級取得を推奨するため、放課後講習や個別指導の時間を設けている。意欲喚起が課題である。 ④タブレット型PC等を活用し、アクティブラーニング型の授業を実施する。	①シラバスに基づいた授業の実施 ②先取り学習の推進と内容定着の両立 ③各種検定級取得の推進 ④オンライン機器の有効活用	①中高一貫部の6年間の目標を踏まえ、年度当初に授業年間計画及び数値目標を作成する。 ②先取り学習は、生徒の内容理解や興味・関心の度合を踏まえたうえで、進度を柔軟に変更しながら展開する。 ③生徒の検定級取得のため、朝学習や放課後講習を実施する。検定合格を皆で讃え合う工夫をする。 ④生徒はiPadを所有する。学校はMicrosoft Teams を活用し、教材提供、学習状況管理などを行う。	①定期考査目標を達成したか。 ○平均点の上昇 ②私学テストで偏差値が向上したか。 ○各教科で+2 ③難関有名大学合格者を輩出したか。 ④英語検定・GTECの目標を達成したか。 ○中学で準2級合格者5名 ○高校で準1級合格者3名 ⑤ICT教材を有効に活用したか。 ○自主的な学習時間の向上 ○主要教科での必活用	①教科担当者同士の連携によりよりよい授業づくりが、実践できた。主要5教科での目標点到達には至らなかった。 ②私学テスト偏差値は中2の英語・理科・社会にて「+2」の向上があった。 ③海外大学(米国立ユタ大学)をはじめ、難関大学への合格を果たした。 ④中学で準2級合格者5名 中3の英検3級相当81% 高校で準1級合格者1名 ⑤iPadを使用した学習は、多くの教科で取り入れられた。特に数学、理科、社会の授業では活発に行われた。	B	授業力向上に向けた教員研修については課題が残る。授業見学週間を設けるなど工夫はしているが、よりよい授業の実践を目指し、各教科での関連な意見交換の場の設定を含めて検討していく。  定期考査後の資料をグラフ化し、担任との面談や、保護者面談などに活かす。  検定期時には放課後講習にて対策ができるよう、計画する。
3	①学校の教育活動をホームページなどで発信していく。学校が取り組んでいる活動を広く地域に知ってもらうことで、それらの活動をさらに推進していく力にしたい。地域への発信推進に課題がある。	①生徒の活躍や学校行事等の広報	①生徒の教育活動の成果をホームページで積極的に発信する。	①本校の教育活動に多くの方が興味関心を持ったか。	①年間を通して、生徒の活躍をHPに掲載した。 ①伊奈町開放講座には8名、伊奈町文化祭ボランティアには11名の生徒が参加した。多くの町民からお声がけいただいた。	B	地域に愛される学校を目指し、教育の成果を披露する機会を増やす。  ○五峯祭の広報を、保護者会と連携して広く地域に展開してほしい。

学 校 評 価	
実施日	令和6年2月15日
評価委員からの意見・要望・評価等	
<p>○生徒指導上の問題に対する組織的な対応についての観点を記載するとよい。</p> <p>○生徒の行動等がどのように変化したかを更に具体的に示せるとよい。</p> <p>○授業アンケートについては、教師へのフィードバック後に、授業がどのように変わったのかを追求できるとよい。</p> <p>○授業力向上のための研修は、ICT活用と並行して実施できるとよい。</p> <p>○次年度からの土曜講座を活用して多様な学習を展開してほしい。</p>	